［人権参観授業指導案］

第1学年　人権学習指導案

1.　日時　2016年11月8日(火)　5校時

2.　場所　1年各教室

3.　資料名　「となりのたぬき」　せなけいこ作　（出典:ほほえみ1・2ねん）

4.　資料の趣旨

○「決めつけ」や「思い込み」は事実に基づいた正しい判断ではなく、相手の気持ちや願いを踏みにじることにつながり、自己実現や豊かな人間関係づくりを阻む（はばむ）原因となっていることを考えさせる。

○偏った見方で判断した結果、自分も相手に嫌な思いをさせていないだろうかなど、相手の行動ばかり見るのではなく、自分の行動も振り返ることがよりよい人間関係づくりに大切であると気づかせる。

5.　指導目標

「決めつけ」や「思い込み」で人を判断することの誤りに気づき、友だちと仲よくしようとする気持ちを育てる。

6.　本時の展開

学習活動	指導上の留意点
1、「となりのたぬき」というお話の題名を知り、イメージしたことを話し合う。	・「となりの」という言葉から、身近な存在であることを確認させる。
2、①の場面と②の場面のお話を聞いて、うさぎはたぬきのことをどう思っているか考える。 ・嫌っている ・仲が悪い ・顔も見たくない	・①②の場面を読んで、お互いに嫌っていることをつかませる。
3、③の場面を聞いて、お月さまとの約束の内容をつかむ。 ひとつきの　あいだ　たぬきに　うんと　しんせつに　すること	・お月さまとの約束事を確認する。 ・約束事を黒板に掲示する。
4、④の場面を聞く。 やさしくしてもらったたぬきの気持ちを考え、ワークシートに書き込む。 ・うさぎって本当はやさしかったんだ。 ・いいところがあるなあ。 ・うさぎって、いいやつだなあ。	・ワークシートを配布する。 ・④の場面から、たぬきはうさぎの見方が変わったことをおさえる。
5、⑤の場面を聞く。 たぬきの話をきいて、うさぎはどう思ったかを考えワークシートに書き込む。 ・やっつけるためにやさしくしてるのに困ったなあ。 ・たぬきは本当はやさしかったんだ。	・「えっ。」「どうしよう。どうしよう・。」というう さぎの言葉を取り上げ、お月さまとの約束を後悔していることに気づかせる。
6、⑥の場面を聞く。 うさぎがお月さまに「やめてください。」といったあと、どんな言葉をいったかを考え、ワークシートに書き込む。 ・ごめんなさい。 ・たぬきは本当はいいやつだったんだ。 ・たぬきをやっつけないでください。 ・わたしがやさしくしていなかったのが悪かったんです。	・うさぎの心情に迫らせるために、お月さま(先生)とうさぎ(児童)でロールプレイを取り入れる。 ・ロールプレイの中で、うさぎの改心した気持ちを受け止めるだけでなく、初めはたぬきをやっつけたいと思っていた気持ちを指摘するような切り返しの言葉を入れるなど、うさぎの立場になって深く考えさせる。
7、⑦の場面と⑧の場面を見る。 月の中でのうさぎとたぬきの会話を考え、ワークシートに書き込む。 ・これまで、ごめんなさい。 ・こちらこそ、ごめんなさい。 ・ぼくが、悪かった。	・⑦の場面では、うさぎが反省していることをおさえる。 ・⑧の場面で、2人が仲良く会話していることを考えることで、お互いの今までの行動を振り返り、よりよい人間関係づくりのすばらしさを実感させる。

7、準備物

・①～⑧場面の拡大挿絵　・お月さまとうさぎのお面（各1）

・ワークシート

第２学年　人権学習指導案

指導者：１組　所﨑由紀子　３４名
２組　西田智子　　３２名

１　日時　２０１６年１１月８日（金）５校時

２　場所　２年各教室

３　資料名　「ええところ」（くすのき　しげのり作　ふるしょう　ようこ絵）

４　資料の価値

絵本「ええところ」は、主人公あいちゃんが「私にはええところが一つもない。」と嘆いている場面から始まる。しかし、友人のともちゃんに良いところを見つけてもらうことで気持ちが変化していく。そして、ともちゃんが自分にとって大切な存在であることに改めて気づき、自分もよいところを見つけて前向きになっていく物語である。友人に自分のいいところに気づかせてもらい、互いの良さを認め合うことの大切さに気付かせることができる教材である。

５　単元目標

・自分自身や友達の良さに気づく。
・互いに認め合うことがより良い人間関係をきずく上で大切であることに気づく。

６　指導計画（全３時間）

第１時　友達って
第２時　友達の良さに気づこう
第３時　クラスの友達のええところを伝えよう

７　本時のねらい（２／３時）

主人公の気持ちの変化を読み取り話し合うことを通して互いに認め合うことの大切さにふれる。

８　本時の展開

学習活動	指導上の留意点
１、前回の振り返りをする。 A 涙が出た時のあいちゃんの気持ちを考えよう。 ・前回のワークシートに書いたことを発表する。 ・やっぱりええとこないんやわ。 ・ともちゃん、ええとこ見つけてくれるか不安。	・あいちゃん自身の気持ちともちゃんに対するあいちゃんの気持ちを上下に分けて板書する。
２、よいところを見つけてもらった時の気持ちを考える。 B よいところを見つけてもらった時のあいちゃんの気持ちを考えよう。 ・ワークシートに自分の考えを書く。 ・発表する。 ・ありがとう。ええところがあってほっとした。	・ええところを見つけてもらってうれしいだけではなく、ともちゃんへの気持ちにも気づけるように声をかける。
３、本当のええところを見つけてもらった時の気持ちを考える。 C また涙が出た時のあいちゃんの気持ちを考えよう。 ・手が温かいではなく、みんなに優しいのが本当のええところなのだ。 ・ともちゃん、本当にありがとう。→本当の友達	・もっとええところの違いに気づかせる。（B と C では違っていることを確認する。） ・心から嬉しい気持ちになったあいちゃんに気づけるように心情の変化しめす。
・これから自分も人のええところを見つけていきたい。 ４、前向きな気持ちになったあいちゃんの姿を自分たちに置き換えて考える。	・友達に対してよいところを見ていこうとする気持ちが持てるようにさせる。 ・クラスの友達の良いところを見つけていくことを伝える。
５、次回では「クラスの友達のええところ」を伝え合うことを予告する。	

９　板書計画

ええところ

なみだが出た時のあいちゃんの気もちを考えよう。

あいちゃんの　　ともちゃんへの
気持ち　　気もち

・　・

よいところを見つけてもらった時のあいちゃんの気もちを考えよう。

・　・

また、なみだが出た時のあいちゃんの気もちを考えよう。

・　・　・

友だちにええところをほめてもらうと、とてもうれしい
←
友だちのええところを見つけよう。

１０　成果と課題

主人公の気持ちの変化を考えてから第３時で友達のいいところ見つけを行った。友達にほめてもらい、どの子どももうれしそうに喜んでいる姿が見られた。自分がほめてもらう体験をするだけでなく、友だちのいいところの交流することで、○○をすると相手がうれしい気持ちになるということを知り、友だちが物を落とした時など、手伝おうとする子どもの姿がたくさん見られるようになった。また、友だちのいいところを見つけて伝えようとする姿も授業前より多く見られるようになった。

しかし、できていないことがある友だちに厳しい口調で指摘するようなことが回数は以前よりも減ってはいるが、まだまだ起こっているのが現状である。互いのいいところを認め合い、よりよい人間関係がきずいていけるように今後も取り組んでいきたい。

第3学年　人権学習指導案

1.　日時　2016年11月8日(火)　5校時

2.　場所　3年各教室

3.　資料名　「島ひきおに」（出典:ほほえみ3･4年）

4.　資料の趣旨

〇小さな島に主人公のおにが一人ぼっちで住んでいる。そのおにはやさしい気持ちをもち，人と一緒に遊びたい。しかし、大きな体で角や牙があるという見た目だけで偏見をもち，漁師や村人がおにをだましてしまう。この物語を通して，外見だけで人を判断するのではなく，本質を見つめていくことの大切さを考えさせたい。

5.　指導目標

外見や先入観で判断することの誤りに気付き，本質を見つめていくことの大切さを考えさせる。

6.　指導計画(全3時間)

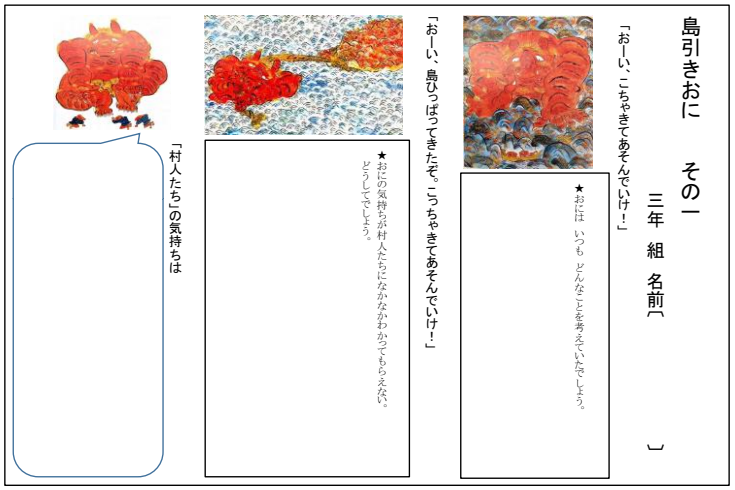
第1時　“おに”に対するイメージを発表する。範読し，おにの気持ちと村人の気持の違いを読み取る。

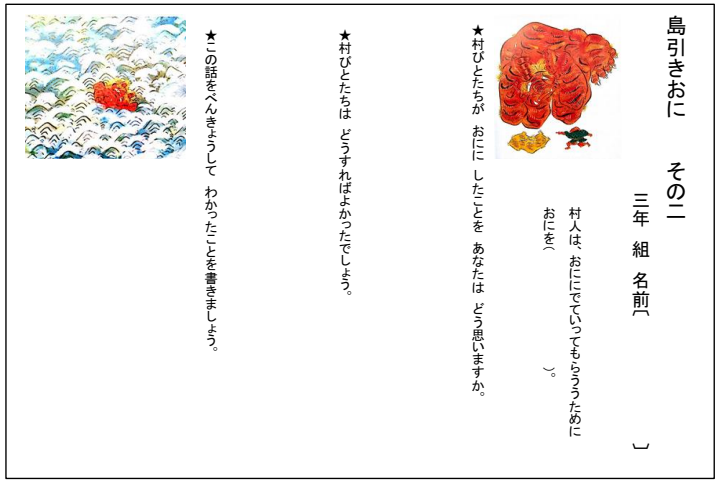
第2時　おにをだまして，追い出した村人たちについて感想や意見を持つ。

7.　本時の展開

学習活動	指導上の留意点
1　全文を読み、前時を振り返る。	おにと村人のそれぞれの気持ちを確認することで、双方の違いに着目させる。
2　村人がおにに対してしてきたことをたしかめる。 ・　うそをついた ・　おにをだました	村人はうそをついたり、だましたりしておにの気持ちを理解しようとしないことに気付かせる。
3　村人がしたことに対して、自分の考えを交流する。 ・　ワークシートに書く ・　発表する。	漁師や他の村の人たちがしたこともとりあげることで、おにの気持ちへの理解も促す。
4　村人はどうすればよかったかを考え、交流する。	多様な意見を認めていくことで、さまざまな考え方を交流できるようにする。 村人たちの気持ちを考慮している考え方も認め、共生の視点も認めていく。
5　学習を終えて感想を書く。	見た目や思い込みできめつけないことが大切であることをおさえ、授業のまとめとする。

8.　ワークシート





第５学年　人権学習指導案

指導者：１組　荒垣洋子　２５名
２組　藤濤直矢　２５名

１　日時　２０１６年１１月８日（金）５校時

２　場所　　体育館

３　資料名　「世界がもし１００人の村だったら」

４　資料の価値

「世界がもしも１００人の村だったら」の教材では実際に子どもたち一人ひとりに役割カードを配り、その人になり切って体験していく。役割カードには、性別、年齢、地域、言語、識字、富について記してある。男女の数、世界は高齢化か若年化か、大陸ごとの人口分布、識字などのテーマごとにグループで集まる体験参加型の教材である。世界は、多様な言語や文化を持つ人びとが住んでおり、そこには大きな貧富の格差があることを知ってほしい。普段当たり前だと思っていることができていない人がたくさんいるということを知り、自分には何ができるのだろうかと考えることのできる教材である。

５　指導目標

・貧富の差、非識字を視点に世界の実情を知る。
・世界の実情を知り、自分には何ができるかを考えさせる。

６　本時の展開

学習活動	指導上の留意点
１　前時をふりかえる。	前時までの学習したことを思い出させる。
２　世界の人口は何人か？	役割カードを配り、役になりきることを伝える
３　女性と男性ではどっちがおおい？ どちらが多いかを予想し、確認し、その理由についても考える	
４　世界は今、高齢化？若年化？ ・日本が高齢化と言われているから高齢化	
５　大陸ごとに分かれてみよう 大陸の広さに応じたロープの中に移動する	大陸の確認 世界地図を見せて思い出させる
６　世界の富はだれが持っているの？ ５つのグループにテーマは言わず分かれる。 なんのテーマかを考える 富の差を見比べて感想を言う	水を入れたペットボトルを各グループに配る
７　世界がもし１００人の村だったらの動画を見る 感想を言い合う	
８　本時の振り返りと次時の予告を聞く 〇非識字について知る。 ・字が読めないことは、書けないことでもあることを知る。	識字という言葉に触れておく。 前時の授業「ホムカミ」も思い出させる

第6学年人権学習指導案

1. 学 年　第6学年

2. 単元名　「豊かな人間関係を築く」

～人権を人ごとにせず、自分にもかかわりのある課題として考えよう～

出典:「やってみよう！人権・部落問題プログラム」財団法人大阪府人権協会編著

3. 単元目標

・ 学びの場を「現実」とつなげ、実社会の不合理や差別などの課題解決をめざそうとする態度を育てる。

4. 学習にあたって

(1)　児童観

本学年の児童は男子32名、女子33名で構成され、男女ともに仲の良い学年である。群を抜いた行動力・表現力のある児童こそいないが、協調性に長けており、学校を上げての行事だけでなく、日々の清掃活動にも皆で一致団結できる所が最大の長所といえる。しかしながら、なかなか自己肯定感が持てず、自分に自信のない児童や、学習課題や対人関係、家庭環境などから、常に気に留めておかなければ不登校になる児童も少なくはない。そんな中で6年生では、一人ひとりの持つ課題を理解し、寄り添うことと同時に、集団の中での成功体験を積み上げさせることを念頭に置き、どの学習、行事にも取り組んできた。学習では対話やグループ学習を基礎として、話し合い活動を軸に組み立てた。また、行事や学級活動などは自分たちで計画や進行をさせるようにした。最初は教師に頼る場面も見られたが、自分たちで計画や進行したことが、皆に影響を与えること、その大切さとやりがいに気付き、次第に自分たちで考えるようになってきた。その中で自己肯定感も育ち、集団での活動に積極的に参加する児童が増えてきたように感じる。

人権総合学習では、まず5学年での取り組みとして「識字」について学んできた。「世界がもし100人の村だったら」を教材として、世界の貧困や格差に目を向け学習してきた。そして、吉田一子さんの「ひらがな日記」を読み、日本にも非識字という実態があることを学習した。そして6年生になり、1学期は広島への修学旅行をはじめとする平和学習に取り組んできた。被爆体験者の山崎さんの話を聴き、広島での現地学習や平和朗読会を通して、戦争の悲惨さや平和の大切さ、平穏な日々や命の尊さについて考え、それを自分たちの言葉で、報告会を通して全校生へと語りかけることができた。広島でたてた不戦の誓い、平和の集いで語った「身近ないじめや言葉の暴力もまた戦争です。」という言葉は、大変重く力強かった。しかし、思春期を迎えた6年生には、自分の生活に関連付けて行動できる児童もいるが、なかなか行動に移せない児童もおり、時には相手の気持ちを考えない言動をとってしまう場面もあることが課題として残る。

(2)　教材観

本教材は、身近な人権問題についての参加体験型学習(ワークショップ)である。これからの社会を生きる児童にとって、人権感覚を身につけることは、豊かな人間関係を築く礎となるものである。しかし、人権についての学習はともすれば他人事のようになりがちで、資料を読むだけでは、自分だったらそうはしないという当然の結論にはなるが、実際に出会った人々と関係を築いていく中で、その学習を想起し役立てることは難しい。コミュニケーションの中で生まれる差別や暴力をそのままにしないためには、過去に起こった出来事の学習だけでなく、児童自らが実際に体験し、考えることを通して人権意識を身につけることが必要だと思われる。

人は生まれながらにして一人ひとり違っている。この教材はそのことから派生する人権に関する諸問題をワークショップで体験し、最終的に同和問題学習へと繋げていくものである。噂をそのまま受け止めることの危険性や、伝えたい内容と伝わる内容に齟齬が生じる理由、人がかならず持っている固定概念について体験し、友だちと相談し、考えを深めていくことになる。話し合いを行うと、児童は同じクラスの中でも一つの物事について、様々な受けとめ方があることに気づくだろう。色々なちがいを学び、正解のない問題について話し合い、すでに用意された答えではなく、話し合うメンバー全員にとって、よりよい解決策を生み出すこの活動を通して、児童はより良い実践的な人権意識を身につけていくと考えられる。

また、このような参加体験型学習をすることで、第2期「ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」において培うべき力としてあげられている5つの力のうち、『幅広い知識と教養、柔軟な思考力に基づく判断力や創造力、コミュニケーション能力を培い、勤労を重んずる態度を養い、生涯にわたって個性や資質能力を磨き、志をもって自らの未来を切り拓く力』や『一人一人が社会を構成する一員としての責任を自覚し、公共の精神や人権尊重の精神に基づき、よりよい社会づくりに向けて主体的に行動する力』を培うことができると考えられる。

(3)　指導観

1学期は学級討論会を行い、現実的に起こりうる問題について肯定・否定の立場から意見を述べ合う活動を行ってきた。また 2 学期、運動会にむけてのリレー練習では、どのチームにも足の速い子から遅い子までがいるようにメンバーを構成し、チームごとの練習を行ってきた。指導の念頭においたことは、リレーは足の速い子のおかげで勝てるわけでも、足の遅い子のせいで負けるわけでもない、ということである。バトンタッチや対話などチームワークの中でよりよい成果を追求していくことに学びの意義があると考えているからだ。

本時では徒競走のよりよい在り方について話し合う。今回は、意見の相違点について討論するのではなく、どうすれば皆が納得できるような解決となるかを探究する対話の場となることを企図している。実際の場面ではプレイヤーとして自己の勝敗や走力などに目が行きがちになってしまうが、今回は競技の在り方を構成する一員として、自分の意見を伝え他者の意見を傾聴する活動を通して、「速く走る」という一課題に対し各個人に厳然と内在する能力差をどう取り扱っていくのが望ましいかを考えさせたい。また、「速く走る」という課題自体が適切かどうか、問い直しがあってもよいと考えている。いずれにせよ絶対的正解の存在しない問題である。こうした多様性を前提とした問題解決は、社会の問題解決に通じるものであり、子どもたちにとって重要な学びとなると考えている。

5. 指導計画(全6時間)

時	主な活動内容	目標
豊かな人間関係を築く(参加型プログラム)		
1	【コミュニケーションのすれちがい】 **(人権参観授業)** ・限られた情報を手掛かりに、簡単な絵を描く。 ・その絵をもとにグループで話し合いそれぞれの思い込みや、決めつけがあることを発表しあう。	・コミュニケーションによるすれちがいを体験し、それぞれに思い込みや判断基準に偏りがあることに気付く。 ・正確に情報を伝えたり、受け取ったりするためにはどうすれば良いのか、必要な要素を考える。
1	【うわさと差別】 ・「ギロン星人の怒り」を読み、デマやうわさはどのように発生し広がるのかを考える。 ・被害を受けた人の気持ちや、どんな状況におかれるのかを考える。	・デマやうわさが差別につながることがあることに気付く。 ・加害者にも被害者にもなりうる身近な問題として、自分に何ができるのかを考える。
1	【ちがいと差別】 ・ワークシートから「あっていいちがい」と「あると危険なちがい」を分類し、その特徴を考える。 ・差別につながる「ちがい」とは何かを整理し、発表しあう	・多様性尊重の基本となる「ちがい」に向き合う姿勢を育てる。 ・差別につながる「ちがい」があることに気付く。 ・人権を守るための多様性の尊重について考える。
2	【平等のスタートライン】**(本時1/2)** ・身近な運動会を題材に、能力と平等について考える。 ・4つの徒競走の方法をもとに、グループでそれぞれの良い所と悪い所について話し合い、発表する。 ・最も良い方法として、新アイデアを考える。	・能力の差と平等、差別について考えることを通して、社会の在り方について主体的に考える態度を育てる。 ・話し合いにより自分の意見を伝え、友だちの意見を聴きながら、価値観の多様性に気づき、よりよい考えを作り出そうとする。
1	【暴力の芽を考えよう】 ・ワークシートに暴力を連想できるカードを並べ、平和と暴力について考える。 ・暴力には「直接的暴力」だけでなく、見えない暴力「構造的暴力」「文化的暴力」などがあることを話し合う。	・暴力につながる考え方や価値観が、身近な日常の中に潜んでいることに気付く。 ・対立への向き合い方には様々な方法があり、争いや暴力につながらないアプローチが大切であることに気づく。 ・多様性を尊重する社会においては、対立は避けて通れないことを知り、肯定的に向き合う姿勢を育てる。

6. 本時の目標(4/6時間)

・能力の差と平等、差別について考えることを通して、社会の在り方について主体的に考える態度を育てる。

・身近な人権課題を捉え、話し合いにより自分の意見を伝えたり、友だちの意見を聴きながら、多様な価値観に気づく。

7. 本時の展開

主な学習活動	指導上の留意点
1. 運動会での思い出を振り返る。	・ 運動会という学校行事の中で、運動能力を競うことを得意とする子と、そうでない子がいることを事実として明らかにする。
教材名の「平等のスタートライン」に触れ、「平等」とは何か考える。	・ 平等についてそれぞれのイメージを出させ、定義については明らかにしない。
平等な徒競走の方法を考えよう	
2. 運動会での徒競走の方法を考える。 ○4つの案から、自分ならどの案のどんな所が良いか、ワークシートに考えをまとめる。	・ 正解を導き出そうと考えさせるのではなく、 それぞれの児童の特性や価値観から、多様な意見を出させたい。
3. それぞれの意見をもとに4人グループで話し合い、それぞれの方法の良い点、悪い点をまとめる。	・ 理由を明確に、話し合いをさせる。 ・ どの立場の意見も肯定的に受け入れられる雰囲気に促す。
4. 出た意見を理由と共に発表する。	押さたい3つの観点 ・それぞれの立場によって価値観が多様であること。そのどれもが大切にされるべきであること。 ・「能力による差」を縮めたり、みんな等しくすることが「平等」ではないこと。 ・努力で埋まることのないことがらについて、特別措置を講じることは「差別」ではない。
5. さらによい考えがないか次時につなげる。	・ 出た意見で共有できる価値観を確認する。

8. 授業の視点

・ 全員参加型の授業は成立していたか。(グループ討議・全体の意見交流)

・ 身近な課題を人権課題として捉えようとしていたか。

9．ワークシート

平等のスタートライン　　組　名前（　　）

徒競走の方法を読んで、「いいと思うところ」や「これでいいのかな」と気になったところなど、自分の考えを書きましょう。

	徒競走の方法	考えたこと
A	名前の順番に4人で走り、順位をつけます。 走り終わると金・銀・銅のリボンがもらえ、1位の子は金のリボンを胸に付けます。走るのが得意な子はリボンをつけてもらうことを楽しみにしています。 足の不自由な子は最下位でした。	
B	名前の順番に4人で走ります。順位をつける代わりに、一人ひとりタイムが発表されます。練習の時よりタイムが伸びた子はうれしそうですが、足の不自由な子はタイムは伸びませんでした。	
C	練習でタイムを計り、同じくらいのタイムの子どうしで4人ずつ走ります。実力が同じくらいで盛り上がりますが、速いグループと、遅いグループが見て分かります。足の不自由な子は、どこのグループにも入れず、運動場のすみから応援しました。	
D	練習でタイムを計り、そのタイムをもとにスタート地点に4段階の差をつけました。どの子もほぼ同じようにゴールできるようにして順位をつけます。 足の不自由な子は最も短い距離を走った。	

人権教育学習指導案

指導者名　１組　井上香純
２組　西岡英里奈

① 学年・組　　第３学年　１組（３１名）　２組（３０名）
② 日時　　２月２３日（木）１３：５５～１４：４０
③ 授業テーマ　　男女共同参画　セクシュアルマイノリティ
④ 単元名　　「みんなちがってみんないい」
⑤ 単元目標
・日常生活の中で、当たり前だと感じていることの中にも、性別についての先入観や必要のない区別があることに気づき、それらを正しく判断しようとする。
・セクシュアルマイノリティを含めた性の多様性を理解し、認め合うことができる。
⑥ 単元について
＜児童観＞
本学年の子どもたちは、休み時間は男女が交わって遊ぶことも多い。固定したグループで遊んでいる子もいるが、多くの子は誰とでも関わることができ、大人数で遊びを楽しんでいる姿もよく見られる。しかし、お楽しみ会の景品は男女別に決まった色を用意するなど、男女に関わる固定観念が少なからず子どもたちの中にはあるように感じられる。
＜教材観＞
そこで本単元「みんなちがってみんないい」を設定した。まずは、男女に関わる「ちがい」を、「あっていいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」のいずれにあてはまるかを考える。普段、何気なく見過ごしてしまうようなことがらに焦点をあてて考えてみることで、性別についての先入観に気づくことができる。その上で、女の子から男の人になったゆうきさんの体験談を知ることができるDVDを鑑賞する。このDVDからは、性というものは男と女という二つの区別だけでは判断できないことを知ることができる。また、セクシュアルマイノリティの人が生活の中で抱えている思いを知ることができる内容になっている。セクシュアルマイノリティの人にとっては、小学生ぐらいの年齢から生活のしにくさを感じている人が少なくない。この時期から子どもたちにそういった性に関する知識を知らせ、考えておくことで、間違った先入観や差別を防ぎ、それぞれの自己肯定感を高めることにも繋がっていくと考える。
＜指導観＞
指導にあたっては、話し合い活動をする際にグループ活動を基本とする。第１次の「ちがいのちがい」においては、意見を書き込めるワークシートを用意し、意見を交流しやすくする。そして第３次の「だれにとってもすごしやすい生活を考えよう」という活動の際には、グループでの話し合いでは付箋とグループ作業シートを活用する。一つの考えを一つの付箋に書いて、グループ作業シートに貼りながら話し合いを進めることで、話し合いを視える化し、活性化すると考える。すべての授業の終わりには個々の振り返りの時間を設定して、それぞれが自分自身の学びと向き合う時間をしっかりととりたい。また、授業において一人一人の性の認識にふれることはないが、どのような性の意識をもっていたとしても、それを否定されないような雰囲気を作りながら進めていくことを指導上の重要な要素として位置づけておきたい。

⑦ 指導計画（全３時間）
第１次　ちがいのちがい
１～４の項目について話し合い、「あっていいちがい」「あってはいけないちがい」「どちらともいえない」に分けることで、性別についての先入観や必要のない区別があることに気づく。
１．男子は男子用トイレを、女子は女子用トイレを使う。
２．運動会のかけっこで男子が女子に負けると笑われ、女子は男子に負けても笑われなかった。
３．せい服は女子がスカートで、男子がズボンだ。
４．女子は「〇〇ちゃん」とよばれ、男子は「〇〇くん」とよばれる。

第２次　ゆうきからのお知らせとおねがい
DVD「ゆうきからのおねがい」を見て、心と体の性別が合わない人がいるということを知り、学校生活で困っていたことや感想を話し合う。

第３次　だれにとってもすごしやすい生活を考えよう（本時）

第４次　もちあじはたからもの

⑧ 本時のねらい

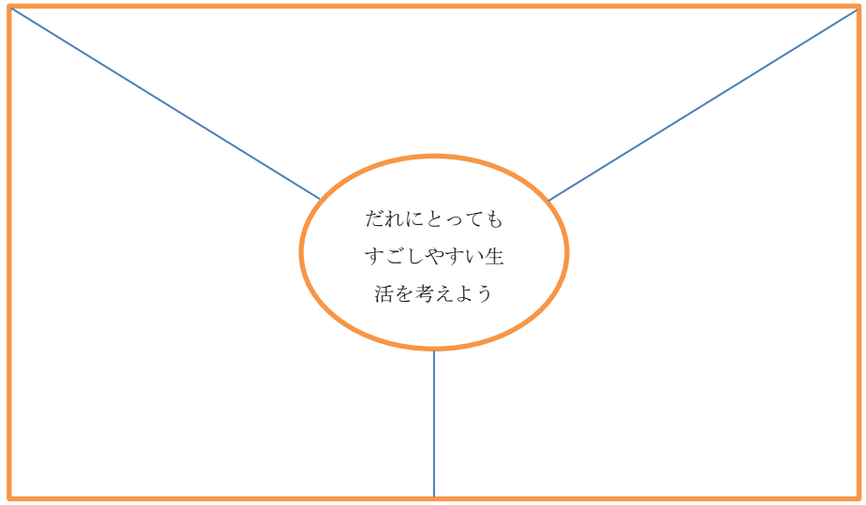
（１） 相手の気持ちに寄り添って考えることで、お互いの違いを尊重し合う姿勢を育てる。

（２） 多様な価値観の違いを認め合うことができる。

⑨ 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	前時のふり返りをする。 ちがいのちがいで分類した項目についてふりかえる。	DVD を見て知ったことをもう一度確認する。 「ちがいのちがい」で出てきた場面で、ゆうきさんにとっては過ごしにくい「ちがい」があることを確認する。
展開	だれにとってもすごしやすい生活を考えよう。 ゆうきさんにも、みんなにも過ごしやすい生活を考える。 個人で自分の意見を考える。 グループで意見を交流し合う。 グループで出た意見を全体で交流する。	みんなにもという言葉を入れることによって、ゆうきさんだけでなく、他のみんなも過ごしやすいという視点も大切にする。 考えは付箋に一つずつ書き、グループ作業シートに張っていく際にまとめやすくしておく。 それぞれの意見は否定せずに耳を傾け、自由に多くの意見を出せるようにする。 グループ作業シートを見せながら発表することで、話し合いの結果が見えるようにする。
まとめ	本時のふり返りをワークシートに記入する。	自分の班で話したことと、他のグループの意見も合わせ、考えたことをまとめる。

グループ作業シート



⑩ その他

参考資料　ちがいのちがい「わたし出会い発見」大阪府人権教育研究協議会
ちがいのちがい～男女共同参画社会について考える～中３　ネットより
小学生向け DVD 教材「いろんな性別～LGBT に聞いてみよう！～
新設 C チーム企画制作



■ゆうきからのお知らせとお願い

ゆうきは女の子で生まれましたが、現在は男として生きています。いえ、男というよりも「自分」として生きていると言った方が正しいようです。アニメーションでゆうきのこれまでの軌跡とたどります。



３年生人権教育　「みんなちがってみんないい」　指導計画

第４次　もちあじはたからもの

目標　一人一人が違ったもちあじがあることを知り、違いを認めあうことができる。

時間	学習計画	指導、留意点など	準備物
３分	ゲストティーチャーから簡単な自己紹介	・セクシュアルマイノリティーに関わることについては、ここではしない。	
１０分	「もちあじ」について知る 担任のもちあじを知る。	・カードを提示しながらもちあじの意味を説明する。 ・「もちあじ＝いいところ」ではないことを伝える。	カード すきなふく すきなかみがた すきな食べ物 すきな遊び すきな人 すきな色 自分のよびかた 家族のこと とくいなこと にがてなこと
５分	自分のもちあじを書く。	・枠が全部うまらなくてもよいことを伝える。	ワークシート
５分	もちあじをシェアする。	・自分が話したいもの一つを選んで話す。	
１０分	ゲストティーチャーのもちあじを聞く。	・多様な性も、もちあじの一つとして捉えられるようにする。	
７分	ゲストティーチャーに質問する。	・自由に聞いてみたいことを聞けるようにする。	
５分	ふりかえりを書く。	・学習の感想を書く。	

『もちあじはたからもの』の児童の感想

・もちあじは、何だろうと思っていたけど「もちあじはたからもの」という学習をして、もちあじはどういう物なのかわかりました。もちあじは全部宝物なんだなとわかりました。

・人けん学習をしてこんな人もいるんだなと思いました。人それぞれもちあじは違うんだなと思いました。もちあじとは、すきな服、すきなかみがた、すきな食べ物やいろいろあるんだなと思いました。

・もちあじは、人によってちがって、それがすごく大事なんだなと思いました。男なのに、女のものがすきだったりするのも、自分の大事なもちあじでべつに悪くないんだなと思いました。これからも自分のもちあじを大事にして、もっと自分のもちあじを見つけていきたいなと思いました。

・一人ひとりちがうもちあじはちがうんだなと思いました。いっちゃんの話を聞いて、いろんなことを勉強ができて、すごくよかったです。また話をいっちゃんから聞きたいです。

・いろんな人にもちあじがあるんだなと思った。今日勉強したことはぜったいにおぼえときたいし、とっても勉強になった。一人ひとりちがうもちあじをもっているので、世界にはとてもいろいろな人がいることを知りました。世界には男でも男をすきな人がいて、女でも女をすきな人がいて、世界ではいろいろな人がいるので、一人ひとりおかしくない。

・いっちゃんにあえてうれしかったです。

・みんなもちあじはちがうけど、みんなちがうとくちょうを持つことを知りました。自分もやりたいことをやっていきたいです。

・いっちゃんは女だった。初めはわからなかったけど、話を聞いたらわかった。女でも女、男でも男を好きになるということがわかった。もちあじは大切だろいうことがよくわかった。女が男の服やかみがたをしてもいいと思った。

・もちあじは一人一人ちがう人だとあらためて思いました。そこが人間のいいとこだと思いました。

・わたしは、男・女いろいろな人がせかいにはいるけど・・・自分が好きなことをやりたいことなど、自分の人生だから自分のやりたいことをしたらいいと思います。女だけど、男のふくのほうが好きなど、男だけど女のふくのほうが好きなど、いろいろな人がいるけど、それはそれでいいなと思った。

・いっちゃんは女だけど、男の人の服をこのんでいます。自分もスカートは嫌いです。男の服の方がこのみです。女なのに男の服を着てもいいのかなやんでいました。けれど、同じことを思っている人がいるんだなーと思いました。だから、そういう人が近くにいてとてもうれしかったです。